

令和5年度 学校自己評価システムシート 城西大学付属川越高等学校

目指す学校像	校是「報恩感謝」の具現化と教育方針「心豊かな人間の育成」「個性・学力の伸長」の実現に向けた有意義な体験が展開されるよう、クラブ活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、将来必要な人間性・人格の陶冶を目指す。生徒の進路実現に向けて、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。	達成度	A	ほぼ達成（８割以上）	学校評価委員	
重点目標	１．学力向上と特別活動等を高い次元で両立する生徒の育成のための指導の充実 ２．人間性の陶冶を目指す指導の充実 ３．地域や世界に目を向けた広い視野を持つ生徒を育成するための指導の充実		B	概ね達成（６割以上）	学校関係者	２２名
			C	変化の兆し（４割以上）	内訳 教職員	５名
			D	不十分（４割未満）	PTA・後援会	１６名
					地域住民	１名
					第三者	３名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標				年 度 評 価 (令和6年3月14日)			実施日 令和6年3月16日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①教科での研究や教師各々の努力・工夫で授業改善を行っている。それを更に向上させる為、組織的な取り組みを継続的に推進する必要がある。 ②効率的な時間の管理を指導、支援し、集中力の向上や自学自習の習慣などの一層の定着を目指す。 ③家庭学習に取り組む余裕のない生徒が若干いる。	授業改善と自立した学習者を育成する取り組みをする。	①定期的な教科主任による会議を通じ情報交換を行い、それぞれの教科の授業に反映できるようにしている。 ②定期試験の結果や模試の成績等进行分析し、個人面談を通して個々の生徒への具体的な働きかけを早い時期から行い、高い目標を持たせ、目標実現のために、意欲的に学習する態度を育成する。 ③内外の試験等の見直しに取り組む、意欲的に家庭学習を進めさせる。	①研究授業の反省や授業参観の感想にとどまらず、指導法の改善に生かせる話し合いが行われているか検証する。 ②大学の魅力や長所を理解し、自分の進路実現に向けて、意欲的に学習に取り組んでいるか検証する。 ③模試等を効果的に活用し、家庭学習の時間が十分確保されているか検証する。	①生徒アンケートの結果、授業に対する満足度は高かった。（全ての科目で80%以上）研究授業を実施し、教員の指導技術を高めた。 ②スタディサポート・校外模試等を実施し、その分析会を通じ生徒の学力を把握し、指導に反映させた。 ③1，2年生とも家庭学習の時間が昨年と比べ増加している。	B	①各教科でアンケート結果を分析し、充実した授業を目指し、組織的に計画的に授業改善に取り組めるよう教員研修の充実を図る。 ②進路実現に向け手厚い進路指導体制を構築し、組織的に継続・発展させる。また、大学に関する積極的な情報収集を促す。 ③目標を明確にさせ、その実現に向け、継続した指導を通し、自立した学習者の育成をめざす。
2	①毎年生徒アンケートを通じて校則の理解等、具体的に判断できるようにしている。恒常的に新入生に対し本校の規則を浸透させる指導が必要である。 ②事象への対応には、各所の連絡を密にし、連携した対応ができるように心掛ける。 ③部・同好会への加入率は比較的高いが、文化部員の加入率がやや低い。運動部の成績の更なる向上を期待したい。	生徒指導の充実を図る。	①通学時の指導、SHR・LHRでの担任の話、授業等の機会を利用し、自己の責任や規則遵守の意義を理解させ、自分を律することの大切さを認識させる働きかけを行う。また、定期的な容儀検査と事後指導を実施する。 ②人権や心の教育への理解を深め、より有益な情報を収集し、実り多い研修会、講座、講演会等を企画する。 ③部・同好会において、練習内容を工夫し、短時間で効果のある集中した活動を行う。	①社会性が育まれ、生徒一人ひとりが自主的な行動ができ、また、基本的生活習慣を確立させ、校則を遵守しているか検証する。 ②人権・心の教育に関する理解促進と人権講話や生き方講演会などを計画的に行っているか検証する。 ③部・同好会への加入率を調査し、各クラブの活動内容・成績・実績等を検証する。	①大きな問題なく経過している。生徒指導部を中心に全教員で指導している為、気持ち良い挨拶ができる生徒が多い。 ②全校集会や学年集会での講話において心の教育に関する理解を深めると共に、進路についても更なる理解が深まった。 ③部・同好会への加入率は91%である。顧問は熱心に指導しており、県・関東・全国大会に出場したクラブもある。	A	①登校時の指導・HR・授業等の機会を利用し、校是である「報恩感謝」を具現化させる働きかけを行う。 ②日常のあり方が日々変化している中、他者を尊重し自他の調和を図る心の教育を効果的に進めていく。 ③時間を効果的・効率的に使うことができる生徒の育成を目指す。工夫した練習内容で、なお一層の好成績を期待したい。
3	①海外の人々との交流を深めるためには語学力が必須である。実用的な英語の力を最大限に伸ばす必要がある。 ②海外とのつながりに関する生徒の意識があまり高くない。生徒がより海外に目を向けるよう指導していくことが重要である。 ③コロナ禍で中止されていた地域貢献活動の再開が期待される。	地域貢献と国際化に向けた取り組みの充実を図る。	①ネイティブの教員による英会話の授業を実施し、コミュニケーションとしての英語を学ばせていく。 ②希望者対象の短期留学プログラムを用意している。より意識の高まる内容に改善していく。 ③地域行事や学習会指導への参加等を再開していく。	①英語外部テストを通じて生徒の英語力を客観的に検証する。 ②留学プログラムへの参加状況やアンケートを通じて生徒の海外への関心意欲を検証する。	①英検の受験を勧めており、昨年よりもさらに受験者数が増加した。2級、準2級にチャレンジする者の人数も増加した。 ②今年度から3カ月間、半年間、1年間の留学制度を開始した。海外に関心を持っている生徒の割合は昨年と変わらなかった（70%）が、海外で仕事をしたいと思っている生徒が約8%増加した。 また、12月に台湾の僑泰高校（チャオタイ高校）と姉妹校締結をした。交換訪問やオンライン交流は継続している。 ③生徒会等を中心に地域行事に参加した。	A	①英検の受験環境を整えるため、英検受験日の授業は短縮授業とする。ネイティブの教員による英会話の授業をより充実させ、実用的な英語の力を伸ばしていく。 ②留学制度とともに、海外の学校等との交換訪問やオンラインによる交流を深め、世界に目を向けた生徒を育てていく。 ③学校行事、生徒の学習とのバランスに配慮しながら、地域行事へ参加していく必要がある。
							【第三者委員会(学識経験者)による評価】 ○地域の学習会指導に生徒が協力してくれており、とても評判が良い。今後さまざまな交流を増やしていけると良い。